

## ～基本的施策取組実績～

### 基本目標・1 「水と緑に育まれた生命みちあふれるまちをつくる」

#### (1) 樹林地の保全と再生と活用（重点施策2）

市民の森整備事業〔都市計画課〕 予算額：893千円、決算額：887千円

樹林地の土地所有者と市が市民緑地契約を締結し、市が一定期間その土地を管理し、市民に公開するものです。

～評価・課題～

現在、ボランティア団体等が下草刈や枝打ち、ごみ拾いなどの活動を実施しています。今後もボランティア団体と連携を図りながら、市民との協働により、市民が身近に緑にふれあえる場として、機能するよう市民の森を適正に管理していきます。

#### (2) ふるさとの景観の保全

ふるさとの郷構想推進事業（水土里のふるさと推進事業）〔産業振興課〕

予算額：500千円、決算額：496千円

農林水産省の「<sup>ふるさと</sup>農山漁村地域力発掘支援モデル事業」の導入に伴い策定した「ふるさとづくり計画」に基づき、高倉ふるさと協議会が市民協働の手法により実践活動を行いました。

～評価・課題～

- ・事業の専門性と迅速な実施を確保するため、①森②川③ビオトープ④小麦⑤名物料理⑥特産物⑦農地活用検討⑧グリーンツーリズム⑨ホームページの9つのプロジェクトにより取り組みを行いました。
- ・今後のふるさとづくりの資料となる市民の森の生態系調査や、飯盛川の水質・生き物調査を実施するなど、地域の自然環境の把握に努めました。
- ・市民の森の下草刈りや植樹、飯盛川の清掃や竹巣箱（棲家）の設置などの実践活動を行いました。

○課題 地域の合意形成、事業の具現化及び実施

#### (3) 緑化の推進（重点施策3）

花とみどりのまちづくり推進事業〔都市計画課〕

予算額：314千円、決算額：310千円

「種まき、移植、植付け」などのボランティアによる花づくり作業を通して、花によるまちづくりのきっかけとするとともに、併せて花づくり活動の基盤づくりを推進します。また、育てた花苗を市民の手により、若葉駅西口駅前広場や公園等に植付け、愛着のある美しい街なみを創りだすものです。

～評価・課題～

市内各所に植えられた花々は、通行する市民の目を楽しませています。現在は行政が主体となった事業となっているため、今後は徐々に市民主導にシフトしていくことが課題です。

## 基本目標・2 「地球とすべての生命をまもるまちをつくる」

### (1) エネルギー削減対策の推進（重点施策4）

#### 緑のカーテン事業【生活環境課】 予算額：—

緑のカーテンは「地球温暖化防止」への取り組みのひとつとして、各種の啓発や公共施設などで率先して実施するほか、家庭や事業所における積極的な参加を促して、普及拡大を図りました。

- ・ H22実施施設 鶴ヶ島第二小・新町小・長久保小・栄小・藤中・東公民館・西公民館・南公民館・北公民館・富士見公民館・大橋公民館・中央図書館・鶴ヶ島保育所・鶴ヶ島東部保育所・富士見保育所・脚折児童館・大橋児童館・学校給食センター・農業交流センター・女性センター・老人福祉センター・保健センター・教育センター・シルバー人材センター・遺跡調査会・市民活動推進センター・埼玉西部環境保全組合・(学童)はちまんクラブ・(学童)どんぐりクラブ・鶴ヶ島西つどいの広場・鶴ヶ島市商工会 計 31箇所
- ・ つるがしま緑のカーテン市民実行委員会（愛称：みどりかぜ）主催、鶴ヶ島市などの協賛により、緑のカーテンをより多くの市民に関心をもっていただき、広く普及することを目的に、「第1回つるがしま緑のカーテンコンテスト」を実施しました。第1回コンテストでは、設置・育成の工夫、地域への広がり、カーテンの完成度、地球温暖化に対する意識などを評価基準とし、53件の応募の中から入賞者を決定しました。

#### 「鶴ヶ島市地球にやさしいオフィス率先行動計画」の実践【生活環境課】 予算額：—

平成24年度を目標として、「第2期鶴ヶ島市地球にやさしいオフィス率先行動計画」をスタートさせました。環境に配慮した事務事業を実施するとともに、市役所等市内39施設から排出される温室効果ガス（主に二酸化炭素：CO<sub>2</sub>）の排出量を平成17年度実績から4%削減することを目標とし、節電、節水等エネルギー削減対策に取り組んでいます。

#### ～評価・課題～

基準年度（平成17年度実績）と比較して、CO<sub>2</sub>換算の合計で、4.26%、147,697kg削減することができました。また、第1期計画期間中に増加率の高かったコピー用紙については基準年度の使用量以下とすることを目標としていますが、昨年度は基準年度に比べて、9.96%削減することができましたが、これにパソコンプリンター用紙を加えると、基準年度に比べて、14.40%増加しました。今後も引き続き、

- 1 事務室の電気は就業5分前まで消灯する。昼休みの部分消灯を徹底する。
  - 2 両面印刷・コピーを徹底する。資料は「ワンベスト・ツーベター」となるよう工夫する。
  - 3 ノー残業デーを徹底する。
- の3つの行動に重点的に取り組んでいきます。

#### 庁舎管理における省エネ対策〔財政課〕 予算額：—

- ・ エレベーター利用者に対し、階段の利用を促進しました。
- ・ 照明、電気設備等のこまめな電源の入切を行い、不要な照明を消灯しました。
- ・ 空調の設定温度を冷房28℃、暖房19℃に設定し、運転時間を制限しました。
- ・ 女子トイレ内擬音装置による節水対策を実施しました。

#### ～評価・課題～

庁舎光熱水費については、職員の協力により、極力省エネに努めたが、夏季の猛暑や庁舎屋上防水・外壁改修工事等の影響により、電気使用量が10.1%、水道使用量が9.7%、ガス使用量が52.3%増加しました。このような特殊要因による点を考慮した上で、今後は更なる対策により、省エネに努めていきます。

#### 自転車通行帯の整備〔道路建設課〕

予算額：10,651千円、決算額：12,769千円

歩行者と自転車の通行区分を明確にし、円滑で安全な交通を確保するため、市道547-1号線（富士見通線）の路肩に幅1.5mの自転車通行帯を整備しました。

#### ～評価・課題～

この自転車通行帯の整備で、自動車から自転車利用へ転換する人が増加することにより、ガソリン等のエネルギー使用量が削減され、CO<sub>2</sub>の削減につながり地球温暖化の防止が期待できます。

また、今後については、県の策定する「ぐるっと埼玉サイクルネットワーク構想」の推進等も含め、自転車の利用環境の向上に努めていきます。

## (2) 自動車の排気ガスの排出抑制

#### 公用車の使用抑制〔財政課〕 予算額：—

- ・ 公用車使用の際、「相乗り」、「アイドリングストップ」、「光化学スモッグ注意報発令時の公用車使用の自粛」に努めました。また、公用車の買い換えは、低公害車の購入に努めました。
- ・ 公用自転車の使用により、公用車の使用抑制に努めました。

#### ～評価・課題～

公用車の使用抑制等に努めた結果、CO<sub>2</sub>排出量を0.3%削減できました。また、昨年度は公用車を77台から73台に4台削減しました。加えて買い換えにより4台の低公害車を購入しました。

### (3) 公共交通機関の利用促進

#### 市内循環バス運行事業【総務人権推進課】【H22.2～ 市内公共交通実証運行事業】

予算額：94,889千円 決算額：92,200千円

地域公共交通総合連携計画に基づき、従来の市内循環バスの運行形態の見直しを行い、平成22年2月から、バスについては、運行ルートをもとに簡素化することによる増便を図ることとし、バス路線が空白となる地域に対しては、きめ細かいルート設定をした路線型の乗合タクシーを導入しました。

～評価・課題～

利便性の向上に向けて、高頻度の運行を実施していくとともに、バスと乗合タクシーを相互に乗り継ぐことによる市内の公共交通ネットワークの構築を図ることとしました。

今後は、更なる利用者の増加を図っていくため、利用実態やニーズに合った運行経路や運行形態への見直しを検討していく必要があります。

### (4) 排水の適正処理

#### 浄化槽設置整備事業補助金【生活環境課】

予算額：600千円、決算額：600千円

生活雑排水の放流による公共用水域の水質汚濁を防止し、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図るため、合併浄化槽設置者（下水道認可区域以外に自己住居用の住宅に10人槽以下の浄化槽を設置する方）に補助金の交付を行いました。

補助対象者 2人

補助額 600,000円/基（7人槽2基）

（内訳） 合併浄化槽設置費 240,000円/基×2基

既存施設撤去処分 60,000円/基×2基

～評価・課題～

合併浄化槽への転換を推進することにより、水質汚濁の原因となる雑排水を適正に処理し、公共用水域の水質汚濁及び土壌汚染の防止に努めました。

今後は、更なる合併浄化槽への転換促進をいかに図るかが課題です。

## (5) ごみの減量と資源化（重点施策5）

### ごみの減量と資源化〔生活環境課〕 予算額：— 千円

平成22年度の市民1人1日当たりのごみ排出量は、前年度と比較すると可燃ごみが10g減少し、不燃ごみが2g増加しました。合計で8gの減少となりました。

平成22年度におけるごみ減量化啓発としての取り組みでは、

- ・簡易包装やマイバックを活用したレジ袋削減の推進
  - ・生ごみの水切りの励行や資源分別回収の周知徹底
- などを行いました

～評価・課題～

今後は、更なるごみの分別収集の徹底や、ごみの減量化と資源の再利用に向けた5R（リフューズ・リデュース・リユース・リペアー・リサイクル）の実践に取り組むとともに、より一層の普及啓発が必要となっています。

## (6) リサイクルの推進

### 塵芥処理事務費（リサイクル液体石けんづくり）〔生活環境課〕

予算額：71千円、決算額：39千円

廃食用油から作製したリサイクル液体石けんの配布を行い、ごみの減量化、リサイクルに対する啓発を行いました。

- ・配布用石けん作製 1回

～評価・課題～

環境月間において展示や配布を行うことで、より多くの方に啓発を行うことができました。

今後は、市民による自主的な石けんづくりが行われるよう努めていきます。

### 集団資源回収事業〔生活環境課〕 予算額：2,808千円、決算額：2,808千円

家庭から排出される廃棄物で、再利用できる資源を回収する団体に対し報償金を交付することにより、廃棄物の減量化・資源の再利用促進に努めました。

- ・紙類・布類・生きびん・カレット・金属類（5円/kg・本）

登録団体 32団体

交付団体 27団体

～評価・課題～

廃棄物の減量化・資源化の促進に一定程度の成果がありました。

今後も環境意識の醸成と市民参加の推進の観点からも引き続き集団資源回収の取り組みを行い、資源の再利用の促進、ごみの減量化に努めていきます。

## 基本目標・4 「人の交流の豊かなまちをつくる」

### (1) 環境教育の推進体制の整備（重点施策7）

#### 啓発展示の実施【生活環境課】 予算額：一千円

環境問題に対する市民意識の啓発をより一層進めるため、環境月間（6月）や地球温暖化防止月間（12月）に合わせて、市・市民・事業者が協働のもと「啓発展示」を実施しました。

##### ・環境月間啓発展示

期間 平成22年6月9日～6月23日

場所 市役所ロビー

内容 環境問題レポートコーナー、地球温暖化問題コーナー、5Rの実践コーナー、環境団体コーナー

##### ・地球温暖化防止月間啓発展示

期間 平成22年12月6日～12月21日

場所 市役所ロビー

内容 地球温暖化パネルの展示、第1回つるがしま緑のカーテンコンテスト入賞作品の展示 ※12月14日に緑のカーテンコンテスト表彰式を実施

#### ～評価・課題～

市内の事業所、環境団体の協力のもと、啓発展示を実施することができました。

今後も環境問題を啓発するため、啓発展示を通じて市民意識の高揚に努めていきます。

#### 環境学習会の開催【生活環境課】 予算額：30千円、決算額：0千円

環境問題に対する市民意識の啓発をより一層進めるため、環境学習会を開催する予定でしたが、東日本大震災の影響により、中止となりました。

#### ※参考 予定していた内容

テーマ ひろげよう緑のカーテンの輪 ～楽しい緑のカーテン講座～

内容 基調講演 板橋区立高島第五小学校教諭 菊本るり子先生

テーマ 緑のカーテンのある暮らし

取組発表 緑のカーテンコンテスト入賞者ほか

日時 平成23年3月19日（土） 13時30分～15時30分

会場 市役所5階会議室

#### 子どもエコクラブへの支援・連携【生活環境課】 予算額：—

次世代を担う子どもたちが地域の中で仲間と一緒に主体的に地域環境、地球環境に関する学習や具体的な取り組み、活動が展開できるよう、資料等情報の提供を図りました。

平成22年度の登録団体数は、4団体 57人。

#### ～評価・課題～

資料等の提供を通じ、水質調査、川清掃への参加、リサイクル活動などに積極的に取り組んでもらえました。

**まちづくり市民講座開催事業【秘書政策課】 予算額：－**

平成22年度は、環境・5R（リフューズ・リデュース・リユース・リペアー・リサイクル）、都市づくりに関する講座を11講座用意し、環境教育の充実を図ってきました。このほか、希望講座がない場合は、リクエスト講座として開催しました。

平成22年度開催状況

・環境に関する講座 2件 参加者数 14名

～評価・課題～

講座を通して、「し尿や浄化槽汚泥処理」「水道事業」に関する市の取り組み等についてご理解いただきました。

今後も引き続き、まちづくり市民講座をPRし、希望者の要望に応えた講座を提供していきます。

**公民館学級講座の開催【各公民館】 予算額：10千円、決算額：10千円**

○東公民館学級講座等開催事業 予算額：－

◆夏休み子ども体験教室「ソーラークッキング」、参加者：16名

夏休みを利用し子どもたちを対象に、エコ鶴市民の会会員が指導者となり、太陽の熱で野菜を調理する「ソーラークッキング」を開催しました。

～評価・課題～

あいにくの天気のため、実際に太陽の熱でゆでることができませんでしたが、講師のお話や、投光器を太陽に見立て説明するなど関連性がわかり、理解しやすい内容でした。

◆キャンドルナイト

夏至の夜18時から電気を消して、ろうそくの明かりで過ごしました。

～評価・課題～

- ・キャンドルナイト会場へ誘導する灯火は素晴らしいものでした。
- ・参加者は楽しい時間を過ごせた様子でした。
- ・キャンドルナイトの時間帯は夜遅くなるため、どうしても、子どもの参加を期待することが難しいと思われます。（親の協力が必要不可欠です）
- ・ろうそくを使用するため、火気に十分注意する必要があります。

◆緑のカーテン

東公民館図書館分室のガラスに、緑のカーテンをかけました。

～評価・課題～

- ・職員と利用者で設置ができたので良かったです。
- ・植え込みのため成長が良かったです。
- ・重みのある植物のため屋上から吊ってある紐が切れ、補修が大変でした。

《次ページへ続く》

○南公民館 緑のカーテン事業 予算額：－

南公民館の視聴覚室・学習室の壁面に緑のカーテン（ゴーヤとおかわかめ）をかけました。視聴覚室前はアスファルト舗装のためプランターにゴーヤ苗を植えて設置しました。

猛暑のため、水やりが欠かせませんでした。早朝の散歩時に水をまくなど南公民館利用者の会が主体となって実施しました。

～評価・課題～

- ・地球温暖化防止の啓発につながりました。猛暑だったにも係わらず前年までと比べて室温が上がらず、緑のカーテンの有効性が実感できました。
- ・つるがしま緑のカーテンコンテストで優秀賞を受賞しました。
- ・学習室については、2階にあることと、ゴーヤ等を植える場所が植木の陰になることから、生長が悪く視聴覚室の様な効果が見られませんでした。

○北公民館 緑のカーテン事業 予算額：－

図書館北分室南側の面に、ゴーヤの苗で緑のカーテンを設置しました（4株）。

～評価・課題～

- ・地球温暖化防止の啓発につながりました。
- ・朝のラジオ体操参加者（地域住民）の協力により設置しました。
- ・ゴーヤが思うように生長しませんでした。
- ・日差しを遮るまでの状態にならなかったのが残念でした。

○富士見公民館 緑のカーテン事業 予算額：－

富士見公民館の壁面に緑のカーテンをかけました。

館長が自宅から竹を切ってきてカーテンの枠を設置しました。

ラジオ体操の利用者に水やりの協力をいただきました。

～評価・課題～

- ・地球温暖化防止の啓発につながりました。
- ・果実を利用者に配布することにより、緑のカーテンの楽しみを啓発することができました。
- ・設置場所について遮光効果上課題が残りました。

○大橋公民館学級講座等開催事業 予算額：10千円、決算額：10千円

◆地域づくり支援事業

①人と自然にやさしい有機農法を市民に推進するためEM菌を使用した自然農法を学びました。参加者：30人（のべ265人）

～評価・課題～

2年目の実施で畑に活性液やボカシの効果が出て良質で大量の野菜が取れました。公民館サークル「有機野菜を作る会」の指導のもとで実施したことにより多数の指導者がいたので受講者からは好評でした。

《次ページへ続く》

○大橋公民館学級講座等開催事業

◆地域づくり支援事業

②緑のカーテン作り及び除草作業&交流会実施 参加者：30人

有機野菜を作る会の呼びかけで、環境問題を考え緑のカーテン作りや農薬を使わない土づくりを進めながら公民館内の木の剪定や除草作業を実施し、作業後おにぎりを食べながら参加者の交流をしました。

～評価・課題～

緑のカーテン作りでは、つるがしま緑のカーテンコンテストで「アイデア賞」を受賞しました。

また、作業の後の交流会で日頃交流のないサークル間の交流ができ、利用者の会の設立にも役立ち、大変有意義のある作業となりました。

○西公民館学級講座等開催事業 予算額：-

◆子どもチャレンジ教室（西児童館共催）

①環境わごん「森の夢工房」 参加者：20名（小学生）

丸太切り体験、流木工作など、木の役割を知り森林保全の必要性に関心を持ってもらうために開催しました。

～評価・課題～

本田技研工業株式会社 埼玉製作所「環境わごん」の協力により開催されました。

山や川などの自然に存在する丸太や流木などの素材を活用し、動物の模型などを作ることで、木や森の大切さを学びました。また、水環境問題にもふれ、水の大切さの学習もしました。

②環境ワゴン「ストーンペインティング」 参加者：22名（小学生）

河原の自然石の形などから川の流れの威力を知り、自然の不思議さに興味を持ってもらうように環境学習を開催しました。

～評価・課題～

本田技研工業株式会社 埼玉製作所「環境わごん」の協力により開催されました。

河原の自然石にペイントを施す際、石の型や大きさなどを確認することで、川の流れの威力を知り、自然の仕組みや環境保全の大切さを体験学習しました。大きな河川の無い鶴ヶ島の子どもたちには貴重な学習の機会となりました。

◆緑のカーテン

西公民館事務室西側の窓際に、西公民館利用者からいただいた「おかわかめ」の苗で緑のカーテンを設置しました（8株）。大きめのプランターに18センチ四方の角目ネットを使用しました。

～評価・課題～

つるがしま緑のカーテンコンテストにおいて審査員特別賞（団体部門）を受賞しました。

小中学校における環境教育体制の整備 [学校教育課] 予算額：—

○教科

教科（理科・社会科等）の中で環境（地球の環境問題や環境保全等）に関する内容を取り上げています。

○体験活動

- ・ 紙や缶のリサイクル活動（鶴ヶ島第一小・鶴ヶ島第二小・新町小・杉下小・長久保小・栄小・南小・鶴ヶ島中・西中・南中）
- ・ 残飯等の生ごみや落ち葉などを堆肥にする活動（鶴ヶ島第一小・鶴ヶ島第二小・杉下小・長久保小・栄小・藤小・南小・鶴ヶ島中・富士見中・西中）
- ・ 学校内に生息する動植物の観察活動（鶴ヶ島第一小・鶴ヶ島第二小・新町小・杉下小・長久保小・栄小・藤小・南小）
- ・ 学校の周りの動植物の観察活動（鶴ヶ島第一小・鶴ヶ島第二小・新町小・杉下小・長久保小・栄小・南小・鶴ヶ島中・富士見中・西中）
- ・ 地域清掃活動など家庭・地域と連携のある活動（鶴ヶ島第一小・長久保小・栄小・鶴ヶ島中・富士見中・西中・南中）
- ・ 河川等の水質調査（南中）
- ・ 学校ファーム（藤中）

～評価・課題～

環境問題に対する一人一人の認識（環境感覚）・知識としては高まっていますが、自ら進んで環境問題を見つけ解決しようとする力の育成までは至っていません。具体的な社会事象を取り上げ話し合ったり、児童生徒に身近な体験的活動等を取り入れ、環境保全への関心・行動力を高めていきます。

**企画提案型協働事業「わかば大学塾」〔社会教育課〕 予算額：－**

市民が講師となって講座を企画・運営する生涯学習事業「わかば大学塾」において、次の講座を開設した。

1 平成22年度前期

「鶴ヶ島が抱える環境問題の易しい解説」

講師：鶴ヶ島環境グループ市民教授団【平成22年度中6回実施】受講生20人

2 平成22年度後期

「わがまち鶴ヶ島の自然環境・人づくり・まちづくり」

講師：鶴ヶ島環境グループ市民教授団【全6回】受講生21人

「緑のカーテンで環境にやさしいまちづくり」

講師：前田則義氏【全1回】受講生16人

「私達の生活をめぐる鶴ヶ島の自然展望」

講師：三浦清氏【全2回】受講生13人

「鶴ヶ島の自然と生き物たち」

講師：鈴木勝行氏【全1回】受講生11人

注：「わかば大学塾」は、市が市民活動団体「わかば風の会」と協働で実施する「企画提案型協働事業」です。

～評価・課題～

環境教育の実践意欲を有する市民に対し、活動の場を提供することができました。

本事業の性質上、講座のテーマは講師（市民教授）に委ねられることとなります。

(2) きれいなまちづくりの推進

**地域環境美化推進員〔生活環境課〕 予算額：－**

地域の環境の美化を推進するために、地域環境美化推進員を委嘱し、環境の美化推進及びごみの減量化、資源化の啓発活動や分別収集の助言、各種情報の提供や研修会を実施しました。

平成22年度の委嘱者は119名。

～評価・課題～

地域環境美化推進委員によるごみ出し指導やパトロールなどを実施することにより、集積所のルールの徹底が図れました。また、地域環境美化推進員からの情報提供により、不法投棄物の早期発見及び回収を図ることができました。

### 不法投棄物処理対策事業 [生活環境課]

予算額：1,774千円、決算額：1,426千円

ごみ不法投棄防止対策の強化及び不法投棄された処理困難物の処理を行い、環境美化に努めました。

- ・ 不法投棄禁止看板作成 100枚
- ・ 不法投棄物撤去及び監視パトロール 51回
- ・ 廃タイヤ処分 700kg
- ・ 廃家電製品処分 95台 (テレビ・冷蔵庫・洗濯機・乾燥機)

#### ～評価・課題～

不法投棄物は、その材質や量により投棄された場所の土壌や水質に大きな被害を与えることがあります。これらの撤去には、多額な費用を要することもあり、時間が経つにつれ、環境への影響が懸念されます。

不法投棄物の処理困難物については、専門業者に処理を依頼しています。

民有地の不法投棄物については、その土地管理者に情報を提供し、回収と防止対策の実施を依頼しています。

不法投棄の防止は、「早期発見」、「早期回収」が重要であり、また、その未然防止が大きな課題となっています。このようなことから、不法投棄禁止防止看板の設置や定期的な不法投棄物監視パトロールを行い、不法投棄の防止に努めます。

### きれいなまちづくり運動実施事業 [生活環境課]

予算額：5,440千円、決算額：3,934千円※再掲

- 自治会、協力団体、企業等による市内一斉清掃
  - ・ 春期一斉清掃 (実施日：22.5.16 参加団体数：89 団体)
  - ・ 秋期一斉清掃 (実施日：22.10.17 参加団体数：87 団体)
- 自治会による道路側溝汚泥清掃 (毎月第2日曜日及び一斉清掃時に実施)
  - ・ 約45t汚泥回収処理

#### ～評価・課題～

市民・事業者・市の協働により、年2回の一斉清掃活動を実施し、良好な環境の保持に努めました。

今後も地域環境の美化のため、多くの市民や自治会、団体、企業等に参加を呼びかけます。

**公園サポート事業〔都市計画課〕 予算額：60千円、決算額：34千円**

市が管理する公園、緑地、広場などにおいて、自主的・自発的に清掃、花植え、緑化等の活動を行うため、市民に公園等のサポーターとして登録してもらい、協働により公園等を管理するものです。

・公園サポート登録団体数 18団体・208名

～評価・課題～

現在、公園の清掃等の維持管理は、限られた予算の中で実施しているため限界がありますが、公園サポーターにより、清掃、除草、花植え等を実施し、良好な維持管理を図ることができました。

**道路・水辺のサポート事業〔道路建設課〕 予算額：－**

市が管理する道路及び水路において、市民と市が協力して、美化・清掃活動等を行います。

～評価・課題～

平成18年度からスタートした市民ボランティアによる「鶴ヶ島市道路・水辺のサポート」団体等の登録は、平成22年度末現在、9団体で592人となっています。

登録団体の構成は、ボランティア団体、会社、地域グループ、個人等で構成され、平成19年度からは自治会の登録もあり、地域ぐるみの活動となっています。

また、平成19年度からの活動内容として、道路の植樹枿や残地等を利用して花植え等を行っていただける団体が増えてきました。

**屋外広告物簡易除却事業〔道路建設課〕 予算額：－**

道路上の電柱、街路樹、ガードレール等に貼られた違法なはり紙、はり札、立看板を市民ボランティア〔応募者を対象に講習会を受講後、市長から委嘱を受けた者（鶴ヶ島市違反簡易広告物除却推進員）〕により除却を実施しました。

～評価・課題～

平成17年度からスタートした市民ボランティアによる「鶴ヶ島市違反簡易広告物除却推進員」の登録は、平成22年度末現在、6団体で71人となっています。

平成22年度の活動による成果は、作業参加者数延べ71人で185枚の除却を行いました。

除却推進員制度の開始当初に比較すると、違反広告物の件数も減少傾向になってきました。しかし、最近では除却物の種類が「はり札」から「はり紙」に変わってきており、推進員に任せるには危険を伴うため困難な状況です。このような状況から、電柱の所有者である東日本電信電話株式会社、東京電力株式会社へ防護シート等の貼付をお願いしています。今後も電柱の新設、建替時に道路占用許可申請の中で防護シート等の貼付を依頼し、高所箇所には貼られる状況を減少させ、除却作業の負担を少なくしていく方針です。

### (3) 環境情報の拠点づくり

#### 地域協働ポータルサイトの利活用〔市民協働推進課〕 予算額：－

インターネット上の「地域協働ポータルサイト」を利用し、情報交換の場「プロジェクト」(コミュニティ)を提供しました。「プロジェクト」を通じて、環境分野の団体や環境にやさしい取り組みに関心のある個人が自由に意見交換や情報の発信、共有を図ることができ、環境に配慮した取り組みへの支援ができました。

また、まちづくりポイントを発行することにより、環境配慮行動の普及促進を図りました。

#### ～評価・課題～

現在、環境分野で、14のプロジェクト(コミュニティ)が動いており、情報交換や情報の発信が行われています。

下記の取り組みに対してポイント発行を行いました。

1. 緑のカーテンギャラリーへの投稿 40ポイント
2. 環境配慮行動宣言アンケート 45ポイント
3. 環境家計簿 21ポイント

今後の課題は、パソコンやインターネットに馴染みのない方が気軽に参加できるような仕組みづくりをより一層すすめていくことです。